

はじめに

本書は、物理教師と釣りバカがタッグを組んで完成させた自信の一冊です。

日本には釣りを楽しむ人が大勢いますが、長野県という内陸部に暮らしながら毎週のように海まで出かけて釣りをする市川憲一もその一人です。同僚に誘われて何度か釣りをするうちに、すっかり魅了されてしまいました。いまでは立派な釣りバカです。

そんな彼から釣りの話を聞き、釣りの奥深さを感じたのが著者です。高校の物理の教師をしている私は、物理的な視点からものごとを考えるのが癖になっているのかもしれませんが。それは、釣りの話を聞いているときも同様でした。私は、釣りのことを知れば知るほどに、そこにたくさんの物理、あるいは科学が潜んでいることに気づいたのです。

そこで、釣りの道具、釣りの方法などいろいろな角度から釣りに関わる物理学を検討してみました。もちろん、釣りバカの協力を得ながらです。すると、昔から使われてきた釣り具がとても理にかなったものであることに気づいたり、最新の釣り具に物理学が活かされていることが分かったりと、興味深い発見がたくさんありました。釣りをするわけではない私ですが、釣りと言理の関係を知れば知るほどに「なるほど」「そうだったのか！」と感動したのです。

この経験を活かし、釣りをする方にも、釣りをしない方にも楽

しんでいただけるようにと執筆したのが本書です。釣りをする方にとって本書は、釣りの楽しみや味わいを増すだけでなく、釣果ちようかを上げるのにもきっと役立つことと思います。釣りをされない方は、釣りをしなくても本書を読むだけで釣りの楽しさ、奥深さを感じられることでしょう。釣りをする方もしない方も、気楽に読んでいただけるものに仕上げました。

なお、本書ではおもに釣りにまつわる「物理」をとり上げていますが、もう少し広く「科学」的な知見も交えて書いています。

また、物理的内容を詳しく書いた部分については、読み飛ばしていただいても話の流れを理解していただけます。該当する部分
は実線で囲んであります。もちろん、物理を学んだ経験のある方などには読んでいただければと思います（およそ高校物理までの内容です）。

これとは別に、破線で囲んだ部分もあります。これは話が脱線している部分（脱線しているけれども楽しんでいただけると
残した部分）です。「ここは脱線部分だな」と思っていたければ読みやすくなると思います。

たとえ自分が釣りをしなくても、ほとんどの人は釣りで得られたものを食しています。釣りは、私たちと非常に深く関わっているのです。そんな釣りについて、本書を通して理解を深めていただけたら、著者にとっても監修・協力者にとってもこの上ない喜びです。

三澤信也